

II 現地ヒアリング調査結果の取りまとめ

1 現地ヒアリング調査の概要

(1) 調査対象

今回実施したアンケート調査の回答者のうち8件の農家を選定。

※ 選定に当たっては耕作地の特性やトラクターの作業内容等に配慮して行った。ただし、本調査の実施時期が新型コロナウイルスの感染時期と重なったことから、当初予定よりも対象数を絞らざるを得ず、中山間地帯中心の広島県の農家4戸と、平坦地である熊本県の農家4戸、併せて8戸の農家を対象に実施した。

(2) 調査方法

協会職員が農家に出向き聞き取りによる調査を実施。

(3) 調査時期

広島県 令和2年11月26日～27日

熊本県 令和2年12月17日～18日

(4) 調査内容

アンケートの調査項目についてより具体的に聴取。

特に、トラクターを利用する上で特に気を付けなければならない箇所（ほ場、ほ場の進入路、農道、一般道（交差点、交通量の多い道路））等について現場を確認するとともに、そこでの注意点やヒヤリ体験について聴取した。

また、現地で安全フレーム等の営業を担当した販売店の職員に対し、対象トラクター所有者に対する今回の取り組みの周知状況や、勧めたにも関わらず取り付けを行わなかった農家の状況等について可能な範囲で聴取した。

調査結果は次項(5)(6)に詳述するが、その要点については「I アンケート調査結果の取りまとめ」中にも記載したとおり。

2 現地ヒアリング調査の結果

(1) 広島県における調査

A 農家（広島）の回答内容

住所	広島県安芸高田市
年齢	65歳
調査年月日	令和2年11月26日
トラクターの型式	GL19
購入年次	平成20年頃（中古）
年間稼働時間	25時間～50時間未満

耕作面積	水田 0.5 ha
主な作物	水稻
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「安全フレームを取り付けると高価であった」と回答。 ・父親が購入したトラクターを引き継いで使用。 ・購入当時フレーム等はそんなに普及しておらず関心もなくて付ける気にならなかった。 ・けがをすることはあっても死ぬことはない程度の認識であった。 ・耕作面積もあまり広くなくトラクターは動けばよかった。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作地は家の近くのみで道路を走るとはほぼないが田越は多い。 ・背道（家と農地に挟まれた道）や里道（幅 90cm の昔の道）が多く、トラクターが通るためには改修が必要。 ・倉庫わきの背道は広げたが作業機を倉庫の壁に何度もこすった（傷跡あり）。 ・昔は耕作地を少しでも広くするため里道は狭かったが、今は自分で広げている。 ・作業は本人の他に息子も行うが、困難な作業はやらせない。
取り付けることとした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けに関する情報は NHK のニュースで知り、そのあとクボタに電話をした。 ・取り付けた感想はアンケートで「運転時に安心感が増した」「知人にも勧めたい」と回答。 ・トラクターの作業は半分くらい後ろを見て行うため、フレームは視界をふさいで邪魔になるが、安全のためには何かが犠牲になることは仕方ない。 ・キャビン付きのトラクターを運転したことはないが、運転は至難の業ではないか。 ・フレームの取付については知人にも話したが取り付けたかどうかは不明。
フレームの価格評価	・5 万円超～10 万円
シートベルトとヘルメットの使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シートベルトは面倒くさいので締めることはない。 ・40 年位前の自動車（義務化されていなかった当時）の感覚である。 ・農作業が（個人の仕事ではなく）公共事業になったら締めると思う。 ・ヘルメットは持っていない。 ・雇用者がいて作業をさせるとすれば労災がうるさいのでかぶらせると思う。
事故又はヒヤリ体験	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が坂道で転倒したことがある。 ・トラックからトラクターを下ろす時や、旋回しながらのほ場進入・退出、高岸を超える時が危険。

安全対策の実施状況（やっていないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は特段気にしない。靴は長靴。 ・低速車マークは道路をあまり走らないので不要。 ・全部ではないが農道の路肩の草刈りはしている。 ・取扱説明書は購入時に付いていなかった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の改正に伴い教習所で大型特殊免許を取得した。無免許で捕まると免許取り消しにより自動車の運転もできなくなり大変なことになる。

B 農家（広島）の回答内容

住所	広島県安芸高田市
年齢	68 歳
調査年月日	令和 2 年 11 月 26 日
トラクターの型式	GL21
購入年次	平成 26 年頃（中古）
年間稼働時間	25 時間未満
耕作面積	水田 8.6 ha
主な作物	水稻
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「その他：取り付ける安全フレームがなかった」と回答。 ・営農組合の解散に伴い、誰かが組合のトラクターを購入してあげないと清算ができないので本トラクターを購入した。従ってフレーム付きかどうかの選択肢がなかった。 ・昔はフレーム無しが普通であったが、やはり不安に感じてクボタに相談したこともあった。 ・他にトラクターを 2 台所有（三菱とヤンマー）しているがどちらもキャビンが付いている。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作地の多くは受託地。点在しておりほ場まで距離があり傾斜地も多い。自作地であれば進入路の整備ができるが、他人のほ場はできない。 ・傾斜地の道路からほ場に入る時が恐ろしい。退出はバックで出ることも多い。 ・倍速ターンも危険、公道上に出る前にはきちんとブレーキを連結している。 ・ギアをバックにすると自動的にロータリーが上がる機能が付いているが、そのスイッチを切るのを忘れていてバック時に（重心が高くなり）怖い思いをしたことがある。

取り付けること とした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けに関する情報は農業共済新聞で知った。 ・1万円で付くというのでクボタに行って確認した。 ※なお、新聞情報をもとに農協に話をしたら知らなかった。 ・もともとフレームのないトラクターは不安だった。 ・取り付けた感想はアンケートで「運転時の安心感が増した」「フレーム等のないトラクターは使用すべきでない」と回答。
フレームの価格 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・5万円超～10万円
シートベルトと ヘルメットの使 用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シートベルトは道路を走る際（ほ場以外）には付けている。 ・作業中は降りることが多く面倒。 ・ヘルメットは持ってはいるがかぶることはない。 ・全メーカーがフレームの後付けをやってほしい。
事故又はヒヤリ 体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場への急な進入路（登り）でタイヤがスリップしたことがある。その時は作業機を上げたら前輪が上がりヒヤリとした。 ・田植機は後ろに苗を積んでいると前輪がよく上がる。前に肥料を積むなどしている（人を乗せて重りにはしない）。
安全対策の実施 状況（やってい ないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・低速車マークはヤンマーのを持っているが付けていない。 ・点検時にはエンジンを止めているが、ロータリーをざっと水洗いする際には回しながら行う方が泥はよく落ちる。 ・草刈りは自分の田んぼの分はやるが、そこを通るとしても他人の田んぼの分まではできない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の改正に伴い大型特殊免許を取得したが、農大での取得は抽選となり外れた（応募者90人、定員は13～15名）。 ・そのため教習所で取得したが教習所も定員オーバーで空き待ちの状況であった。 ・費用は農大であれば15000円程度だったが、教習所では7万円余り必要となった。 ・制度改正の情報を早く欲しかった。なお、情報はクボタ販売店から聞いた。

C 農家（広島）の回答内容

住所	広島県安芸高田市
年齢	69歳
調査年月日	令和2年11月27日
トラクターの型 式	GL21
購入年次	平成元年頃（新車）
年間稼働時間	25時間～50時間未満
耕作面積	水田1ha

主な作物	水稻
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「安全フレーム等を取り付けられることを知らなかった」と回答。 ・トラクターは父親が購入したので正確には理由は不詳。 ・購入当時は進入路が整備された自作地のみを耕作していたためほ場の出入に危険はなかった。 ・その後に借り受けたほ場は進入路が不備で危険を感じていた。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・借り受けたほ場での作業の他、営農組合の作業もオペレーターとして行っている。 ・自作地以外のほ場は進入路が不備で危険。 ・ほ場まではすべて自走する。 ・次男も休日には作業を行う。慎重なタイプだがまだ初心者なので危ない作業は自分が行うことにしている。 ・ほ場に石が多いのでトラクターを降りてよく拾うが、ステップが片方にしかないので両方に欲しい。
取り付けることとした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けの情報はクボタの販売店が展示会の案内をポスティングしてくれた際に入っていた。 ・2年前から進入路が急な田んぼの作業を引き受けており危険を感じていた。 ・危ない時には飛び降りればよいと考えていたが、フレームを取り付けてからは安心感があり飛び降りようとは思わなくなった。 ・フレームの取付部分に遊びがあり作業中に音がするのがやや気になる。
フレームの価格評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1万円超～5万円 ・1万円は本当に安い。付ける前はペラペラの鉄板を想像していたがしっかりしていてびっくりした。 ・1万円なら絶対に付けるが10万円なら付けない。5万円まで。
シートベルトとヘルメットの使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場は近隣ばかりであり、また作業中に石を見つけると降りて拾いたくなるので道路・ほ場ともシートベルトは締めない。 ・ヘルメットは持っていないしムレるのでかぶらない。周りでもかぶっているのは1町に一人くらい。大きなトラクターを持っている人や、役場に勤めているなどよほど意識の高い人くらいではないか。 ・クボタの展示会の景品にヘルメットを配ると良いのではないか。ヘルメットの後ろにクボタマークの反射材が付いているとなお良い。
事故又はヒヤリ体験	<ul style="list-style-type: none"> ・溝にはまって傾いたことや、深い田んぼから斜めに上がろうとして横転しそうになったことがある。 ・そうした場所は斜めではなくまっすぐに進入するべきだった。必要に応じバックで登ることも必要。

安全対策の実施状況（やっていないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・点検は定期的にはやっていない。悪くなったらクボタの営業を呼んでスポット的に対処する。難しい機械ではないのでそうした対応でやっている。 ・自動車のドライバーは三角の低速車マークの意味を知らないのではないかと。 ・草刈りは中心的にやる人がいて皆さんきちんと取り組んでいる。営農も含め地域のリーダー的な人が熱心なので、地域全体がそのような雰囲気になる。 ・草は放置するとイノシシの隠れ場所になってしまう。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払い機を使う際には防護用のゴーグルをする。 ・斜面の作業の際は鉋の付いた靴を履いている。 ・刈払い機のカバーも大きめのを付けている。 ・手袋は薄手のものを使用。チェーンソー用の振動吸収手袋は厚くて感覚がわからない。 ・大型特殊の免許は来週から教習所に行って取得する。 ※「農耕限定」のコースはないので、フォークリフトで取得するが6回通う必要がある。 ・トラクターが公道を走れなくなると運搬車が必要になり小規模農家つぶしになる。田植え機も同様だが、加害者にはなることは少ない。 ・（田植え機は本当は公道走行できないとの説明に対して）全てが同じ土俵だとつらい。〇〇HPまではOKとか2条までならOKとか（小型であれば基準を満たさずとも公道走行可）にならないものか。

D 農家（広島）の回答内容

住所	広島県府中市
年齢	68歳
調査年月日	令和2年11月27日
トラクターの型式	GT3
購入年次	平成27年頃（中古）
年間稼働時間	25時間～50時間未満
耕作面積	転換畑1ha
主な作物	野菜
フレームを付けてなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「安全フレーム等を取り付けられることを知らなかった」と回答。 ・購入当時、20馬力くらいの中古トラクターが欲しくて探していたところ、知り合いからの紹介でちょうどいいのが見つかった。 ・フレームの有無については考えなかった。

危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・作付けは白菜中心で契約栽培を行っている（「ピクルス」とその子会社（姫路）と契約）。 ・キャベツも栽培し「三原サラダクラブ」に出荷している。 ・耕作地は1 ha くらい。半分が自作地で残り半分が受託地。 ・畑は4 か所くらいに分かれており、遠いところはトラクターをトラックで移送する。 ・トラクターは段差を斜めに入る際に危険。直角に進入しろと教科書に書いてあるのは知っているが、急ぐとついやってしまう。畝立ての際にも傾く。 ・耕作している畑は転換畑が多く、畔が残っていて高低差がある。
取り付けることとした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けの情報は日本農業新聞の全面広告で知った。 ・すぐに農協に聞いてみたがその時はまだ知らなかった。 ・その後再度広告が出た際に農協に聞いたところ大丈夫とのことであった。 ・近くにクボタの営業所はなく、販売店との付き合いはない。 ・畦畔を超える際等は危険なので、フレームがないよりはあったほうが良いと思っていた。フレームが中古部品として販売していないか、インターネットで探してみたこともある。
フレームの価格評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1 万円超～5 万円 ・あれだけのものを付けると5 万くらいはするのかなあ。農家の経営は厳しいので5 万が限度。
シートベルトとヘルメットの使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シートベルトは締めることはない。 ・ヘルメットは、他の機械と一緒に作業する時（複数のトラクターでの作業、フォークリフトとの作業等）にはかぶる。
事故又はヒヤリ体験	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が終わりトラックにトラクターを載せる際に前輪が浮きあがったことがある。 ・ほ場の出入り口で畦畔を超える際にヒヤリとしたことがある。
安全対策の実施状況（やっていないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルやエレメントの交換は自分でやる。 ・低速車マークは付けていないが、暗くなってから作業をすることは年に2 回くらいだし、道路を走ることも少ない。 ・草刈りは個人ではやらないが地域でやっている。 ・作業機は普通の道路では下げない。
その他	

販売担当者（広島）からの聞き取り

	対象トラクター所有者への周知状況等
A 担当者	<ul style="list-style-type: none"> 顧客のトラクターの機種はほとんど頭に入っているが、担当エリアには対象機種は少なく、所有者にはほとんど当たった。GLシリーズの2ケタ台を所有している農家はAさんとBさんのみで双方とも取り付けを行った。
B 担当者	<ul style="list-style-type: none"> 管内で対象トラクターを所有している農家は今回取り付けたCさんを含めて3軒。 Cさん以外の2軒の農家にも勧めたが、「トラクターはほとんど使っていない」「離農予定である」との理由で取り付け行われなかった。 管内農家への周知は展示会の案内と一緒にチラシを全農家にポストインした。

(2) 熊本県における調査

A 農家（熊本）の回答内容

住所	熊本県阿蘇郡西原村
年齢	62歳
調査年月日	令和2年12月17日
トラクターの型式	GL21
購入年次	平成25年頃（中古）
年間稼働時間	25時間未満
耕作面積	水田0.4ha
主な作物	水稻（食用0.1ha、WCS0.3ha）
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは「安全フレームを取り付けると高価であった」と回答。 購入当時はフレーム等がないのが普通で特にフレームの有無については考慮しなかった。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ほ場は平坦地で進入路も整備されているので特に危険はない。 ただし、ほ場に行くには川を渡る必要があり、ほ場もその川に面していることから、そこでの通行や作業の際には注意が必要。 WCSの収穫は酪農家にやってもらっている。

取り付けること とした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けに関する情報は販売店や家族から聞いた。 ・取り付けた感想はアンケートで「安全のため設置が必要と考えていた」「経費が安価であった」「家族又は知人に勧められた」と回答。 ・父親がトラクターで狭い道を走行していた際に転落寸前の状況になったり、近所の方がトラクターで川に落ちるとい事故もあったことから安全のためにはフレームが必要と考えるようになった。 ・そのためインターネット等でフレームが後から装着できるものか、中古部品などがあるか探してみたこともあったが見つからなかった。
フレームの価格 評価	・5万円超～10万円
シートベルトと ヘルメットの使 用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートではだいたい締めているとの回答であったが、実際は装着したばかりで、装着後はほとんどトラクターに乗っていない。 ・ヘルメットはバイク用のものは所有しているがトラクターではほとんどかぶらない。
事故又はヒヤリ 体験	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が狭い道で転落寸前の状況になったことがある。 ・自分でもブレーキ連結を忘れるときがある。
安全対策の実施 状況（やってい ないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備工場を経営しておりトラクターの整備もできることは自分でやっている。 ・傾斜地走行に際し、必ずしも作業機は下げないが、田から道路に出るときは下げるようにしている。 ・取扱説明書は中古機であるため購入時に付いていなかった。
その他	・フレーム装着後まだ作業は行っていないが、屋根が付いたことにより日よけになってありがたい。

B 農家（熊本）の回答内容

住所	熊本県菊池市
年齢	65歳
調査年月日	令和2年12月17日
トラクターの型 式	GL29
購入年次	平成25年頃（中古）
年間稼働時間	25時間～50時間未満
耕作面積	水田5ha、畑5ha
主な作物	水稲（食用2ha、WCS3ha）、ソバ、スイートコーン、大麦

<p>フレームを付けなかった理由等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「安全フレーム等を取り付けられることを知らなかった」と回答。 ・中古であり購入の際は値段と機能については考えたが、フレームのことについては考えなかった。 ・このトラクターは狭いほ場の耕うんや溝堀を中心に使用しており、ほ場が平坦地であることもあって特に危険は感じていなかった。 ・広いほ場の耕うん等は大型トラクターで対応しており、当該機は溝堀りに作業を特化させている。作業機の付け替えが大変なので、このように専用機的に用いる。 ・ハウス用に使用しているまた別のトラクターはハウスに入れられないためフレームを外している。ハウス内の作業に危険は少ない。
<p>危険を感じる作業、場所は</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の多くは平坦地で進入路もほ場整備の際に広くしており危険は少ないが、大型のトラクター等が通るには農道がやや狭いと感じている。 ・受託地は遠いところで3キロほど離れている。コンバインは運搬するが大型トラクターは自走。低速車マークは付けていない。 ・WCSの収穫は酪農家に委託している。
<p>取り付けることとした理由等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けに関する情報は販売員から聞いた。 ・取り付け感想はアンケートで「運転時の安心感が増した」と回答。 ・高齢となり目は見えなくなるし腕の力も弱ってきてトラクターの運転がづらくなりはじめ、もしもの時を考えるようになった。
<p>フレームの価格評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付けるのは2万円くらいまで。
<p>シートベルトとヘルメットの使用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シートベルトは道路走行の場合は締めるようにしているが、それでも近くに行く時には締めない。
<p>事故又はヒヤリ体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンバインでの作業中運転台から滑って落ちそうになったことがある。長靴に泥が付くと良く滑る。 ・外れたベルトを戻そうとして指を挟まれそうになったこともある。 ・セミクローラのトラクターは地面への引っ掛かりがよく安定感があってどこでも行ける気になってしまい、畔を斜めに超えようとしてヒヤリとしたことがある。
<p>安全対策の実施状況（やっていないこと）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トラクターは故障した時に販売店に連絡しており、定期的な点検はやっていない。 ・ロータリーに絡まったひもを鎌で取るときなどは、エンジンは止めてないがPTOは止めている。 ・危険な場所については路肩の草刈りをやっており、自分の田畑周囲に危険なところはない。

その他	・大型特殊免許は以前から持っているが、制度改正後あちこちで警察に捕まっているという話を聞いており、周囲に教習所に行って免許を取得しようとしている者は多いようだ。
-----	----------------------------------------------------------------------------------

C 農家（熊本）の回答内容

住所	熊本県玉名郡長洲町
年齢	86 歳
調査年月日	令和 2 年 12 月 17 日
トラクターの型式	A15
購入年次	平成 18 年頃（中古）
年間稼働時間	25 時間未満
耕作面積	畑 0.1ha
主な作物	野菜
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は公務員であり再就職先を退職後に 0.1 ha の自作地のみを耕作。それまで畑の管理は他の人に頼んでいた。 ・このような事情でトラクターは手ごろな中古機を探して購入したがフレームは付いていなかった。農作業安全に関心が高かったことからクボタの担当者に「フレームを付けられないか」と聞いてみたが当時は不可能であった。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・畑は自宅から 10 分ほどのところにある。 ・トラクターは普段畑に作ったビニールハウスに置いているが、災害でハウスが壊れた際には自宅から自走していた。道路走行には危険が伴う。
取り付けることとした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けの情報はトラクターの修理の際にクボタの販売員が教えてくれた。 ・公務員退職後も労働安全に関する仕事を 7 年間勤めた経験があり作業安全には関心が高くすぐに取り付けてもらった。 ・作業に危険が伴うことについて知らなければ怖がらずに危険なことをしてしまう。私は労働安全に関する業務資料として事故の記事をファイルするなどしていた。トラクターは横転や転落事故が怖い。その対策のためにフレームは必要。
フレームの価格評価	・1 万円超～5 万円
シートベルトとヘルメットの使用状況	・トラクターは横転や転落事故で下敷きになることがある。そのためシートベルトやヘルメットは必ず着用している。
事故又はヒヤリ体験	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面で方向転換しようとして傾いてしまい危ないと思ったことがある。 ・親戚の者が横転してけがをしたことがある。

安全対策の実施状況（やっていないこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・点検は定期的にはやっていない。調子が悪くなったら販売店の営業を呼んで修理してもらっている。 ・普段はトラクターを置いてある畑の中だけの作業や走行なので低速車マークは付けていない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の労働安全関連業務に携わった経験から言うと、林業はチームで作業を行い安全指導者がいるのに対し農業は個人で行うことから安全に対する意識が低い。また、自営業のため労働基準法の対象になっていないことの影響も大きいと考えている。 ・事故があった際には刑事罰、民事罰、行政罰、社会罰（風評）を受ける。それがいかに大変かを知っておかなければいけない。 ・その時代の最も高い安全対策を理解しなければいけない。また一方で危険を知ることが重要。こういう場面ではこういうことが起きるといったことを災害事例として周知するとともに、KYK（危険予知訓練）を行うことが大切と考える。

D 農家（熊本）の回答内容

住所	熊本県熊本市
年齢	42 歳
調査年月日	令和 2 年 12 月 18 日
トラクターの型式	GL21
購入年次	平成 26 年頃（中古）
年間稼働時間	50 時間～75 時間未満
耕作面積	水田 12ha
主な作物	水稻（食用）、麦、大豆
フレームを付けなかった理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・弾丸暗渠、施肥、溝堀等の作業の際、作業機の付け替えが面倒な上、小型のほうが作業をやりやすい場合もあるので、購入時点では中古で安価な小型のトラクターを求めている。中古の場合は価格条件や状態などの条件を優先して選択し、フレームの有無について特に気にしなかった。
危険を感じる作業、場所は	<ul style="list-style-type: none"> ・作付けしているほ場は約 40 筆。遠いところは約 3 キロ離れている。 ・コメは食用のみで全量 J A に出荷している。カントリーが近いので麦も含め運搬には有利。 ・耕作地は平坦では場整備も終了しておりほ場への進入路も特に問題はなく転倒の恐れは少ない。 ・けがはしたくないし農業機械を壊したくないので危ないことはしない。
取り付けることとした理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・取り付けの情報は日本農業新聞の全面広告で知った。 ・すぐに農協に聞いてみたがその時はまだ知らなかった。 ・フレームも必要だが日よけも欲しかった。 ・付けてみるとやはり安心感があり農作業安全について考えるようになった。

フレームの価格評価	・5万円超～10万円
シートベルトとヘルメットの使用状況	・シートベルトは道路では締めているが、ほ場内は低速なので締めていない。
事故又はヒヤリ体験	・農業用ヘリコプターのオペレーターもやっているが、離着陸時に人がローターと接触する恐れがあり気を遣う。 ・大豆の収穫の際、普通型コンバインに大豆が引っかかった時の除去処理は危険を感じる。ただし、いちいちエンジンは止めない。
安全対策の実施状況（やっていないこと）	・オイル交換等できることは自分でやっている。 ・低速車マークは付けていないが今後取り付けたい。
その他	・労働力は本人の他に両親と妻。収穫期等は2～3人雇用している。その労働力と所有している農業機械の能力を考えるとまだ余力があり、20ha位までは耕作可能と考えている。 ・大型免許は10年前に取得。妻も農大で受講して免許を取得した。 ・制度改正後、取り締まりが厳しくなっているため免許取得希望者が増えているようで、農大も教習所も申込者が多くてパンク状態にあると聞いている。結局、免許取得の対応が困難な老人いじめではないかと感じる。

販売担当者（熊本）からの聞き取り

	対象トラクター所有者への周知状況等
A 担当者	<p>・管内で対象トラクターを所有している農家のリストは作成しているがフレームの有無についてはまでは把握していない。</p> <p>・フレームを勧めたとしても、古い機種であることから他の部品の交換が必要となった際のことを考えると積極的な対応ができない（マイコン装着時代の機種であり、マイコンが故障すると部品供給が困難）。</p> <p>・対象機種を持っている農家に対しては何軒かにチラシを持って行ったが良い反応はなかった。</p> <p>・管内ではトマトやイチゴのハウス栽培が多く、そこでの作業を行う農家はフレームを装着しない。</p> <p>・（今回の対象程度の小型機であれば、農家がひとりで脱着可能かとの問いに対し）人によるが、一般的には2人必要。農家で脱着まで自分でやる人はほとんどいないが、そのためにわざわざチェンブロックを装備したお客さんも一人いる。</p> <p>・折りたためるフレームもあるが、根元からではなく途中から折りたためるほうが良いとの意見もある。</p>

Ⅲ 安全フレーム等装着のための推進方策等

ここまで、トラクターの安全フレーム等の装着に向けた実態調査結果について考察してきたが、第1部の農耕作業用特殊車の交通事故実態も含め総合的に考察すると、安全フレーム等の装着推進のためには、以下の3点を中心とした取り組みの推進を検討する必要があると考える。

1 トラクターの事故実態と安全フレーム等の有効性に関する周知

交通事故の分析で明らかになったように、農耕作業用特殊車の事故件数は全体としては減少傾向にあるものの死亡事故は減少していない。そしてその死亡事故の多くは転落、横転といった車両単独事故であった。こうした事故から乗員の身体を守るのが安全フレーム等である。そうした事故の実態や安全フレーム等の有効性について農業者の方々の理解は人により千差万別ではないかと考えられる。現地調査の中でも、「作業に危険が伴うことを知らなければ怖くない」という意見があったように、その怖さを現実味のある情報で周知することが重要であり、安全に関する研修、講習等に参加してもらう方策を強化する必要がある。現地調査ではさらに、農家はチームで作業を行うことが少なく安全指導者がいないとの指摘もあった。そうした安全指導の役割を担う者を地域の中に設置し、地域全体として安全に対する意識や投資意欲を高める取り組みを広げていくことも有効であると考えられる。

2 復刻版フレーム等装着の取り組みに関する周知

前項でトラクターの事故実態と安全フレーム等の有効性に関する周知の必要性について述べたが、多くの農業者にとっては、安全フレーム等がないと危険であることは理解していても、実際に取り付けようとする行動に結びつかないというのが実態と考えられる。少なくとも対象3シリーズを用いている農業者に関しては、復刻版の取り付けが行われているという情報を全員が知ることが望まれる。今回復刻したフレームの対象となるトラクターだけでも3万3千台が稼働中と推定されており、それらのうちかなりの割合に装着することができれば大きな効果が期待できるところである。

周知については(株)クボタは大きな努力を払っており、訪問、ダイレクトメール、新聞広報等アンケート結果でもどれも効果を発揮しているといえるが、一方装着率はまだ低位であることを踏まえると、例えば行政組織による後押し等外部の協力も望まれるところである。

3 農業者の負担軽減への取り組みと将来方策

今回の復刻版の取り付けに必要な費用は11,000円(消費税込み)と安価である。アン

ケート結果によると、この安全フレーム等の安全から見た価格評価、つまり「いくらまでなら購入するか」という価格については 50,000 円までとする者が半数を超えた。今回の（株）クボタによる価格はコストを度外視したものであるが、農業者の期待する価格でいつまでも提供が可能とは考え難い。また、同様の取組みが他社のトラクターでも行われることが望ましいが、現実的には困難であるとも考えられる。さらに、（株）クボタであってもこの取組みを行えるのは 3 シリーズのみの特定のトラクターであって、それ以前の機種は対象とならない。これらユーザーがフレーム等を装着したくてもできない古いトラクターについては安全を優先し、使用をやめていく方向に誘導すべきである。

なお、現地調査の中では、「このトラクターが壊れたら離農する」ことや、「古い機種であることから（故障した場合に）部品が調達できないと廃車となる」ことからフレーム等に投資したくないとの意見もあったところである。しかしながら、作業を続ける以上安全対策は必要であることや、トラクターは古いものでも中古機として流通している現状を考えると、このチャンスに装着してもらえよう方策を講ずるべきである。